

## 聖路加国際病院ハートセンターのめざすもの

小柳 仁\*

21世紀に入り、人類は未だかつて経験したことのない「超高齢化社会」の到来を迎えることになります。そのため、今後、加齢や長い間の生活習慣に起因する病気の増加が予測されます。とりわけ脳や心臓など全身を流れる血管は、年齢を重ねると共に硬くもろくなってゆくため、詰まったり破れたりする危険性が一年一年高まっています。米国の内科医ウィリアム・オスラーは「人は動脈と共に老いる」という名言を残しています。血管が老いなければ、人間は不老不死で「寿命」という言葉も曖昧になりますが、そのようなことはありません。老化は間違いなく誰にでもやってきます。しかし、生活習慣病に気をつけ、血管の老化を予防し、もし老化が起きても、生命を脅かす一番重大な病気をその都度速やかに的確に治療して行けば、人間は誰でも寿命まで元気で幸せに生きられる能力を持っています。

このように考えてきますと、循環器病診療の重要性がますます高まることは確実です。さらに、循環器病診療は心臓に加え血管の老化に関係する脳神経、呼吸器、腎、糖尿病などの代謝系疾患と深い関係にあります。しかし、「循環器」という名称は、一般の方々には理解しにくく、また言語学の上からは、「循環器」という言葉は「井戸のポンプ」も指すことになるようで、最近では「循環器病」と呼ぶことが多くなっています。これでもまだ言葉としては難しく、聖路加の「ハートセンター」という命名は、日野原理事長によるものでありますが、小学生も含めた万人に分かり易く、大変良い名称であると思っております。

聖路加国際病院の循環器診療は、日野原理事長の内科部長時代より本邦のこの分野で最先端にあ

りました。21世紀を迎え、疾病構造の変化から増加の一途をたどる循環器疾患に対応するため、2001年より診療体制を一新することとなり、循環器内科と心臓血管外科を統合し、ハートセンターとして新たに出発いたしました。日野原理事長には絶妙のタイミングをとらえ、また、聖路加100周年事業の一つとしてハートセンターの新設に踏み切っていただきました。(図1)

最近の診断と治療の進歩は、この分野の疾患について内科、外科といった旧来の医療の仕分けでは整理できないほど集約化され渾然とした医療体系となっています。例えば、急性心筋梗塞発症数十分から数時間で聖路加に届いた患者さんは、恐らく血栓溶解療法とか経カテーテル血管形成術、内腔を確保するためのステント留置術などを、習熟した「内科医」のカテーテル専門家から受けることになると思います。これらの手技は分類からは「手術」に入っています。つまり、内科医が手術を行う時代になったのです。また、心臓血管外科医が手術の計画を立案するとき、循環器放射線、心機能を解析する生理学、心臓薬理を基礎とした内科治療の効果と限界を熟知して計画を立てます。心臓血管外科医の背景には、外科総論は勿論ですが、心臓血管外科の最先端の医療を実現するための知識と技術、それを支える周辺科学、つまり、麻酔科学、電気生理学、人工材料学、人工臓器学、臓器移植学、分子生物学などの力が必要となります。このことからごく一般の循環器診療もインテグレートされた諸科学の上に成り立っているといえます。それと同時に、疾患特異性からして数十分から数時間という極めて短い濃縮された許容時間の間にすべてのことをやり終えなければなりません。このためには担当分野の医師、ナース、技師の一条乱れぬ組織だった動きが必要とな

\*聖路加国際病院ハートセンター

ります。

2001年5月よりハートセンターとしての活動を始めて二年が経ちました。外来初診患者数、冠状動脈造影数、冠状動脈血管形成術数等の増加(図2)に加え、顕著であるのは心臓血管外科手術数(図3)です。ハートセンター開設の年に、一流施設の条件である年間開心術数100例以上を初めてクリアしたことも意義のあることでした。何よりも「ハートセンター」という名称により、心臓血管疾患に対するサービスが外からも、良く「見

える」形になったことの意味が大きいのではないかと思います。

ハートセンター担当スタッフは、

- 統括：センター長
- 循環器内科：医師6名  
(内科部長1名、レジデント2名を含む)
- 心臓血管外科：医師5名  
(心臓血管外科医長1名、レジデント1名を含む)



図1 ハートセンター全景

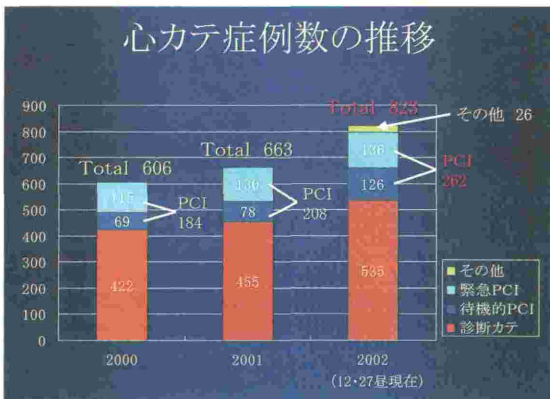


図2



図3

臨床工学技師： 4名  
 中央手術部： 10室  
 ICU・CCU： 16床  
 外来： 4ブース  
 病棟： 全個室 24床  
 平均在院日数： 循環器内科 6.7日  
 心臓血管外科 12日  
 (2003年3月6日現在)

#### 対象疾患

##### 心疾患：

虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞など）、心臓弁膜症、心筋症、先天性心疾患、心膜疾患、心臓腫瘍、不整脈疾患、心不全

##### 血管疾患：

大動脈瘤、大動脈解離（解離性大動脈瘤）、炎症性大動脈疾患、閉塞性動脈硬化症、肺動脈血栓症、静脈血栓塞栓症、静脈瘤、透析用の内シャント造設

#### 高血圧症：

#### 聖路加国際病院・ハートセンターの特徴

- ・日本循環器学会の認定循環器専門医研修施設であり、学会指定の専門医によって治療がなされます。
- ・日本胸部外科学会の認定医認定制度指定施設であり、経験ある心臓血管外科医（指導医および認定医）が外科側の治療にあたります。
- ・内科側・外科側の専門医が密接に協議し、連携のもとに治療選択が行われています。

- ・インフォームドコンセントに基づく医療を最重要課題として実践し、現段階におけるスタンダードな治療を最新の技術で提供できるよう努力しています。
- ・集中治療室（ICU）および心臓病濃厚治療室（CCU）はともに日本集中治療医学会の認定研修施設です。専門医および専門ナースが治療、ケアにあたります。
- ・当院の救急救命センターと連携して24時間オンコール体制で救急医療に臨んでいます。カテーテル治療の15%、開心術の20%が緊急ベースで行われています。
- ・急性期治療後は全室個室の病棟で治療が行われます。
- ・外来部門における密接なフォローアップを行いますが、同時に地域医療期間との連携も大切にしています。

心臓疾患の方が病院に初めてお見えになるとき、「胸が痛い」とか「息が苦しい」等と訴えて来られるわけですから、まず、フロントでその苦しみを受け止めるのは循環器内科の医師であるべきでありましょう。さまざまな検査を経て考察を重ねた後（しかし速やかに）、心臓血管外科の力が手術室や集中治療室などで日夜発揮されており、いつでもその技量を提供することができます。かくして築地の地に循環器病診療の理想像が出来上がりました。「心臓の病気で命を失ってはいけない」という信念でハートセンターは日夜働いています。